開こう我が家の防災会議

―いざというときのために―

九月一日は防災の日

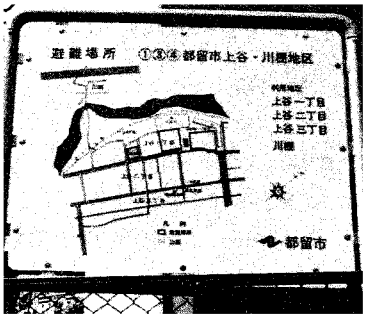
よく知られた「地震、雷、火事親父」を、今日流に「地震、台風火事、津波」などという人もいるようですが、それはともかく地震の恐ろしさは昔も今も変わりません。

日本は世界の地震の一〇%を引き受けているといわれるほど地震の多い国です。体で感じることのできる〝有感地震〟は、一年間に千件前後発生しています。

九月一日は「防災の日」です。

大正十二年九月一日の関東大震災にちなんで昭和三十五年に設けられなもので、災害についての認識を深め常にその心構えを怠ることなく、いざという時に備えようというものです。

お宅の地震対策は大丈夫ですか。自分自身を地震から守るためにも地域で、職場で、学校で、また家庭で防災会議をもち、みんなでいざというときのために話し合いましょう。

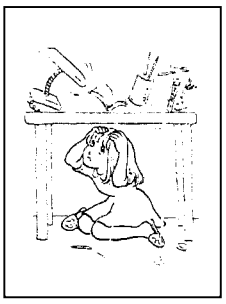


▶避難地案内板

地震の心得10か条

1まずわが身の安全を図れ

丈夫なテーブル、机などの下に身をかくして、しばらく様子を見る。



2正しい情報をつかみ余震を恐れるな

市役所、消防署、警察署などの指示に従って行動する。

一般的には余震は本震より小さいといわれているが、余震には十分注意し、沈着な行動をとる。

3すばやく火の始末

過去の例から大地震で怖いのは火災。地震を感じたらすばやく火の始末をする。

4火が出たらまず消火

万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。大声で隣近所に声をかけあい、皆で協力して消火につとめる。

5あわてて戸外に飛び出すな

どんな大きな地震でも、大揺れは一分程度といわれている。あわてて外に飛び出すと、落下物などにより負傷するなど危険が多いので、周囲の状況をよく確かめて落ちついて行動する。

6狭い路地、へいぎわがけや川べりに近寄らない

狭い路地、へいぎわ、がけの上やがけ下、ブロックべいのそばなど危険な場所にいるときは急いで離れる。

7山崩れ、がけ崩れ浸水に注意

山ぎわや急傾斜地は、山崩れやがけ崩れがおこりやすい。低地では浸水のおそれがあるので、すばやく安全な場所に避難する。

8避難は徒歩で持ち物は最少限に

津波や大火災で避難を行なうときは、消火、救急救護活動などの障害となるので自動車は絶対に使わず、必らず徒歩で避難する。

持ち物は最小限にとどめ、背おうなどして身軽に行動できるよう両手をあける。

9協力しあって応急救護

たくさんの負傷者が出ると救急の手が回らないこともある。協力しあって、応急救護をしよう。急場にはおたがい助け合おう。

10秩序を守り衛生に注意する

身勝手な行動をとらず、秩序を守ろう。伝染病等の発生のおそれがあるので衛生には十分注意する。

農業委員会委員きまる！

農業委員会は農民から選挙される委員と、選任による委員とにより組織されています。

このたび、任期満了による農業委員会委員選挙の告示が七月七日にされ、立候補届出期間内の届出者が選挙による委員の定数（十八人）であったので、無投票となりました。

七月十八日の選挙会において、つぎのとおり当選者がきまり、当選証書が附与されました。

当選人（十八名）

届出順・敬称略

杉田　慶三　境二四一　新
鈴木　登　つる五―五―五　現
中野　博文　十日市場一四六九　現
滝口　龍市　鹿留六二　現
小林　桂　金井三四九　新
奥脇　節義　大野二九五七―一　現
宮沢　冨美　小野五九　新
志村　太郎　四日市場六三　新
田辺　一恵　田野倉一四五四　新
藤本　久夫　金井二七〇　新
若井　博　古川渡八五八　現
椙本弥太郎　小形山二三一四　新
臼井　幸喜　与縄二五　現
小林　静　夏狩一五六　新
室伏　武　法能三一　現
杉本　武男　朝日曽雌一四二四　現
安田　幸夫　大幡四二一二　現
小俣　忠雄　法能八一七　現

選任された委員（九名）

敬称略

神戸　一郎　鹿留二二六一　東桂農協推薦
高部　昇　大幡一一八一　大幡農協推薦
杉本　重晴　上谷四―八―一六　南都留農業共済推薦
坂本本三郎　川茂三九　禾生農協推薦
国田　高忠　中津森五二一　市議会推薦
森　正久　戸沢五三九　市議会推薦
橋本　好郎　朝日曽雌一八二八　市議会推薦
矢野　竹義　井倉三五五―一　市議会推薦
平井　重政　夏狩一三七八　市議会推薦